

<教育目標> 自律 自啓 自尊 他尊

# 東雲

http://kanuma-school.ed.jp/j-higashi/

### 【発行者】

栃木県鹿沼市立東中学校  
住所 鹿沼市府中町393  
電話 0289-62-7225  
FAX 0289-62-7226  
校長 斎藤美智雄

11月の主な行事  
5日～13日 3年 三者懇談  
9,10日 2年 看護講話  
11日 1年 人権講話  
16日 3年生薬物乱用防止教室  
16日～ 1,2年 教育相談  
19日 あゆみ診断テスト3

## 新たなスタートの合図 マイナスな状況プラスに変える旅 三年 修学旅行

令和二年度の修学旅行は、九月十五日（火）～十六日（水）に会津、那須方面に期日・コースを変更して実施しました。実施に当たり、三学年PT

A役員会を開催し、生徒の安全・安心を踏まえたコース及び期日について検討しました。また、保護者会では、見学場所や宿泊所における新型コロナウイルス対策について説明し、保護者の理解をいただきました。今年度の修学旅行は、テーマを「新たなスタートの合図 マイナスな状況をプラスに変える旅」とし、一日目は、鶴ヶ城や飯盛山などクラス単位の見学やガラスアート、あかべこ作り等の体験活動を行いました。二日目は、那須の自然を満喫しました。コロナ禍での修学旅行で生徒達は、会津の歴史・文化に触れ、鹿沼の魅力を見直し、「当たり前前のごとが、当たり前前にできる日常に感謝すること」も体得したようです。



三年学年主任

「二日間でクラスのみんなとの絆・団結力が深まった。改めてこのクラスの一人になって良かったと心の底から思えた。」「ある意味ぼく達は、これまでの先輩達が体験していない特別な修学旅行を経験できたの

事務室から...毎月一五日が学校集金の引き落とし日になります。

だと思っ。このことをプラスに考えて、これからの中学校生活、そして進路実現に向けて頑張っていきたい。」「会津の歴史と那須の自然などを見て、鹿沼にも自分で気づけなかった魅力があることを知れた。修学旅行に行く前よりも鹿沼について興味が湧いたので、もっと鹿沼のことを自慢できるように調べていきたいです。」生徒感想

### 全校企画 2020 とは

新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの学校行事が中止、または大幅に内容を変えての実施となりました。この状況の中で、全校生徒が、何か一つの目標に向かっていけないか？地域に貢献できる活動はないか？と模索しました。その結果、「東中八百一人のパワーを結集させ、みんなで一つのものを作り上げ、東中を、そして私たちの地域である鹿沼を盛り上げよう」と「全校企画2020」を立ち上げました。具体的には、総数約二万四千羽以上の折り鶴に、新型コロナウイルスの終息の願いを込め、二十四文字のメッセージを作成するというものです。三年生が中心となり、メッセージを考えました。完成予定日である十月二十九日に全校生徒にお披露目する予定です。

そして、文字を象った折り鶴を千羽鶴に作り直し、新型コロナウイルスと最前線で戦っている医療従事者の方や、お世話になっている地域の方々へ寄贈できたらと考えています。初めての試みであり、教師、生徒共々手さぐりの状態で不安もありますが、完成をみんなで心持ちにしています。ぜひとも、東中生のパワーの結集を楽しみにしててください。生徒会担当

## 新生徒会役員

九月初旬、生徒会演説会と役員選挙が行われました。生徒全員で東中のこれからを真剣に考え、新生徒会役員が決まりました。

### 新生徒会長の抱負

二年七組石原杏優です。今私は、「より良い東中にしたい」という皆さんの熱い想いと同時に、大きな責任を感じています。生徒全員が互いに協力し合うことで成長し、素晴らしい東中を目指したいと考えています。新生徒会役員一同、心を込めて頑張ります。これからよろしくお願ひします。

会長	石原杏優さん
副会長	齋藤稟仁さん 長谷川菜々美さん
書記・会計	藤田 凧さん 谷口悠一さん 金林奏汰さん 高山拓海さん 片倉朱里さん 高橋凜音さん

学校公開 九月二十九日～十月二日

公開期間中は、学校評議員さんや小学校の先生を含め、延べ百五名の方に参観していただきました。

今回の公開では、授業はもちろん部活動の様子も参観していただき、三年生の進学説明会や学校保健委員会に参加していただきました。

ご多忙の中、御都合を付けていただき、たいへんありがとうございました。

教務主任

2年生 職業人に学ぶ

九月八日(火)の総合的な学習の時間に、鹿沼市青年会議所から十一名の講師に御協力をいただき、「地域の方から学ぼう」を実施しました。飲食業や製造業、建設業など多くの業種についてお話しいただき、自分の生き方について、各自考えを深めたようです。

二学年主任

「やってみなければ分からない。」という言葉が印象に残りました。自分が少しでもやってみたいという気持ちがあったり、やりたくないと思っていたりすることも挑戦してみようと思えました。

生徒感想

3年生 性に関する指導

九月二十四日(木)、三年生を対象に、栃木県助産師会子育て健康支援センター長の小嶋由美助産師による「性に関する指導(変わっていく心と身体)命のバトン」を実施しました。



保健主事

生徒たちは、小嶋さんのお話やスクリーンに映し出される映像を真剣に見ながら、自分が生まれてきた奇跡や命のバトンをつなぐ大切さをしっかりと感じとっていました。

「数億分の一というすごく低い確率で私が生まれてきたことは奇跡であり、自分の命も他の人の命も大切に日々成長していきたい。」「赤ちゃんと生まれるまでには、様々な困難を乗り越えなければならぬ、身の周りにはたくさん奇跡があり、これからも命をつないでいくことが大切だと感じた。」「大変な思いをして私を生んでくれた母に感謝したい、そして性感染症などにかから

ないよう正しい情報を得ることが大切。」

生徒感想

授業が変われば生徒が変わる

東中では、教師の授業力向上を目的として、毎年、様々な授業研究会を行っています。その一環として、今年度一回目の全教職員による大研(大授業研究会)が行われました。

今回も外部から多数の講師を招き、国語・数学・英語の三教科の研究授業を通して、論理的思考力・表現力を高める指導の在り方や読解力を高める指導の工夫・改善等について学び合いました。

よりよい授業実践を通して、生徒の確かな学力育成に今後も努めていきます。また今回の授業研究会は鹿沼市の先生方にも公開し、二十四名の先生方に参観していただきました。 学習指導主任

いじめや差別を許さない

本校では日頃より、いじめを許さない学校風土づくりに重点をおいています。定期的に「学校生活に関するアンケート」を実施し、いじめの未然防止や早期発見に努めたり、「いじめ防止強調週間」を設けたりと、全職員でいじめの芽を見逃さないよう努めています。

現在、新型コロナウイルスの感染者に対する差別・偏見が新たな社会問題になっています。この状況下で、先月末に、全学級の道徳の授業で、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別を題材に授業を行いました。「恐れるべきはウイルスで、人ではない」ということが深く理解できたと読み取れる感想がたくさんありました。

今後本校生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、全職員で真摯に取り組んでいきたいと思えます。 生徒指導主事

特別活動の時間の目指すもの

「特別活動」と聞いて、どんな活動を思い浮かべるでしょうか。「特別活動」の中には、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」があり、目的は次の3つです。

(1) 様々な人と、様々な集団で活動するにあたって何が必要か理解し、実際の行動の仕方を身に付けるようにすること

(2) 生活の中での様々な課題を見だし、話し合いを通して解決方法などを考える中で自分の考えを持てるようにすること

(3) 活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよくし、生き方について考え、自分の目標を達成しようという態度を養うこと

学級活動の時間は、生活の基盤となっている学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためにどうすればよいか考える場です。

生徒会活動では、自分たちの学校生活の充実・発展・改善・向上を目指し、異年齢の生徒と協力して、自発的、自治的に活動しています。朝の挨拶運動やお昼の放送、特別清掃活動など、どれも欠けても、学校生活に潤いや活気が無くなってしまふような大切な活動が多くあります。

そして学校行事には、運動会やしなのめ祭など学校全体で取り組む活動の他に、各学年での宿泊を伴う活動や入学式や卒業式などの儀式的行事があります。行事に向かって、楽しさや困難さを仲間と共有するなかで、学級や学校が高まっていく大切な教育活動です。

これら特別活動を通して、生徒一人一人の成長を促していくことはもちろん、東中学校としてもますます発展し、地域に貢献できる学校を目指していきたいと思えます。 特別活動担当

